



↑梅雨入り花とも、梅雨開け花とも呼んでいるタチアオイ。もっとも私だけだが……  
…。今年は下から順に咲いていた。この分だと梅雨明けは2週間ぐらいか？

→あいかわらず、はっきりしない天気。降るなら降れ、晴れるなら晴れろ。今日も矢切はいまにも雨が落ちてきそうだった。舟はそれでも出す。おれたちの仕事は日雇(ひよりと)りだから、とずいぶん古い言葉を使った。



わたしたちは自然から学ぶことが多い。なにげなく見ている風景のなかにも、すこし角度を変えるだけで、自然はわれわれに、いろいろなことを教えてくれる。

ちいさな子どもが、お爺ちゃんに連れられて渡し舟に乗りに来た。地べたに空いている穴をみつけて、

「お爺ちゃん、この穴はなに？」

「ああ、それはねえ、アリ地獄っていうんだよ」

「地獄？ なに、それ？」

「アリさんがねえ、その穴に落ちたら出られなくなるんだよ」

「どうして？」

「穴の下で落ちてきたアリを待っていて、穴の底にある砂のなかに引きずり込んで食ちやうんだよ」

「こわ！」

大きな木の根元にある、アリ地獄を見ながら、二人が話していた。

アリ地獄にとって、梅雨はかせぎどきだ。雨をさけ、乾いた場所を求めて歩きまわるアリたちを捕まえるチャンスだからだ。

## 今週のクマ

→右の蛾の写真とは関係ないが、クマは背伸びして何をみている。多くの生き物たちが交尾期にはいり、しきりにカップルになっている。ちなみに、クマは避妊手術済み。カップルには、なれない。



ヒロオビトンボエダシャク。舌を噛みそうな長ったるい名。蛾の仲間にしては珍しく昼間活動する。いまは、そっとしておいて……。

このぶんだと、明日は、きつと雨になる。アリが軒下や木の根元を選んで歩いているからだ。

梅雨があげたらトンボのような羽のはえた昆虫が飛びはじめ。アリ地獄の成虫、ウスバカゲロウだ。

梅雨のころに活躍する虫はほかにもいる。やっかいなのはヨトウムシだ。家庭菜園をやっていると経験するが、育ちかけた苗がひと晩で消えることがある。

矢切の渡しでも昨年ほうまく育った皇帝ダリアが、今年は途中で消えてしまった。草をかきわけてよく見ると、葉っぱはことごとく食いつくされ、茎だけしか残っていない。

犯人はヨトウムシだ。昼間は地中に潜り込んでいて、夜中になると這い出して活動する。それもイネ科以外の植物ならなんでも食いつくすから、やっかいだ。

夜中に菜園やプランターなどのそばで耳を澄ましていると、バリバリと葉っぱを食う音を聞くことができる。

虫だって生きなければならぬ。なんとか知恵をしぼって人の寝静まったところに起きだし、生きるために餌を食う。世の中の、それがならぬのだ。